

【規格名（和名）】

臨床検査マスター

【規格名（英名）】

Laboratory Test Code Master

【規格の目的、概要】

臨床検査コードについては、多くの病院が施設固有な検査結果項目コード（ローカルコード）体系を採用しているために、地域連携に際して、医療機関の間で検査結果データを共有することが難しい状況がありました。

そこで、(財)医療情報システム開発センターは、関連諸団体の協力を得て、日本臨床検査医学会が策定した JLAC10 コード(臨床検査項目分類コード第10改訂版)を採用した臨床検査マスターの開発を行いました。

本マスターによって、他の医療機関や検査センターとの間で検査情報を共有するだけでなく、レセプト電算処理システムで用いられる診療行為コードを対応収載して、医療機関内で行われる検査についてオーダから会計まで一元的に管理できるように考えられました。

臨床検査マスターは Excel ファイル（97-2003 ブック形式）で提供され、以下のシートを含んだ構成になっています。

(1) JLAC10 要素コード表

日本臨床検査医学会が公表している JLAC10 の 5 種類の要素コード表（*）を取り込んでいます。

*分析物コード、識別コード、材料コード、測定法コード、結果識別コード

<http://www.jslm.org/committees/code/>

(2) 診療行為コード表

社会保険診療報酬支払基金が提供するレセプト電算処理システム用基本マスターの一つである「医科診療行為マスター」を取り込んでいます。厚生労働省保険局が運用する診療報酬情報提供サービスから入手できます。

<http://www.iryohoken.go.jp/shinryohoshu/downloadMenu/>

(3) 17桁コード表

JLAC10 では、検査結果項目を 5 つの要素 {分析物 (5桁) / 識別 (4桁) / 材料 (3桁) / 測定法 (3桁) / 結果識別 (2桁)} の組み合わせによって表現します。JLAC コーディングは自由度が高い反面、生成された 17桁コードに不一致を生じやすいことがあります。17桁コード表には代表的な JLAC10-17桁コードが収載されており、医療機関等でのローカルコードを JLAC10 コードに対応付け（マッピング）する時などに活用できます。

【規格の適用領域】

本マスターは以下の領域に適用できます。

- ・病院内基幹システムー臨床検査システム間インタフェース
- ・医療機関ー検査センター間インタフェース
- ・医療機関連携システム共通インタフェース
- ・自施設の検査項目コードと JLAC10 コードとの対応表作成支援

【関連他標準との関係】

本マスターは以下の規格等を取り込んでいます。

- ・日本臨床検査医学会 臨床検査項目分類コード (JLAC10)
- ・社会保険診療報酬支払基金 医科診療行為マスター、診療行為コード

【規格の入手方法】

医療情報システム開発センターの WEB サイトからダウンロードできます。

<http://www2.medis.or.jp/master/kensa/index.html>

【メンテナンス状況】

臨床検査マスターは、JLAC10 要素コード表や診療行為コード表が更新された場合、新たに販売流通される体外診断用医薬品があった場合のほか、利用者（医療機関や検査センター等）からコード追加が要望された場合等に更新が行われています。

【現在の改版状況】

臨床検査マスターの最新版は Ver.2.62 (2018年5月11日)であり、6,404件のJLAC10-17桁コードが収録されています。

(参考)

臨床検査項目標準マスター運用協議会※では、JLAC10・臨床検査マスターの問題点の改善、それらの普及等を目的に活動しています。

現在、JLAC10を、臨床検査データの二次利用に堪えられるようJLAC11(第11改訂版)の開発が進められています。

※ 2012年6月設立。下記の7団体が参加。
一般財団法人医療情報システム開発センター

一般社団法人日本医療情報学会

一般社団法人日本衛生検査所協会

一般社団法人日本臨床検査医学会

特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会

一般社団法人日本臨床検査薬協会

一般社団法人保健医療福祉情報システム工業会

URL : <http://kmuk.umin.jp/>